

2年で
48億円!?

都庁より暮らしに

光

を

日本共産党

「光を当てるところが違うのでは」—都庁などの
プロジェクションマッピングに巨額の都税が投入
されることに疑問や怒りの声があがっています。

▼2年間で48億円もの予算をつけています。

▼都庁の足元では、毎週、食料配布支援が行われ、
約800人の方が並んでいます。

共産党は6月の都議会で「知事は都庁の足元で
行われている食料支援の現場を、訪ねたことがあ
りますか」とたどしましたが、小池都知事は「ある」
とは答えませんでした。

プロジェクションマッピングって？

建築物など立体的なものに、プロジェク
ターなどを使って映像を投影するものです

▼プロジェクションマッピングの委託先企業には、
五輪談合で指名停止中の電通のグループ企業で
ある電通ライブが。入札もせず異例の速さで決
定するなどきわめて不透明です。

食料配布・相談支援に
かけつけ主張

蓮舫氏「ここに届く政策もっと」

都知事選挙に立候補を表明した蓮舫参議
院議員が真っ先にかけつけたのが都庁の
下での食料支援（6月1日）。「ここに届く政
策がもっと必要」と語る一方、プロジェク
ションマッピングの検証を主張しました。



都知事選挙への立候補を表明した立
憲民主党の蓮舫参院議員（中央）と、
（左から）小池晃、福山真劫、宇都宮
健児（1人おいて前川喜平、手塚
仁雄、菱山南帆子の各氏

困っている人に政策が届くまっとうな都政をごいっしょに実現しましょう

東京
民報

ご連絡・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2024年6月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行 / 東京民報社（港区芝 1-4-9 平和会館 5 階）1965 年 11 月 12 日第三種郵便物認可